

普及活動情勢報告（令和5年5月分）

安芸農業振興センター農業改良普及課

農業担い手育成センターってどんなところ？～新規就農相談～



就農相談の様子

4月24日、農業改良普及課は親元就農を予定している相談者に対して就農相談を実施しました。農業改良普及課、安芸市、農業担い手育成センターから親元就農に向けたスケジュールや事業概要、研修内容の説明を行いました。また農業担い手育成センターとオンラインでつなぎ、宿泊施設やほ場等のWEB見学も実施しました。

WEB見学について、相談者からは「実際に映像で確認できたことで研修がイメージできた」、「遠方の人にはありがたい」という声が聞かれました。

農業改良普及課は、就農希望者が不安なく研修し、スムーズに就農できるよう、今後も支援していきます。

伝統野菜「ぼたなす」が始まる ～室戸市日南・大平集落活動センター～



「ぼたなす」の世話をする
地域おこし協力隊

5月4～5日、室戸市日南・大平集落活動センター「ひなたぼっこ」6人は、地域に先立って、「ぼたなす」約650株を植えました。農業改良普及課室戸支所は、当日の植え付け方法の他、施肥・土壌消毒など準備からその後の灌水などの栽培管理の支援をしました。

今回定植した農園は、「ひなたぼっこ」が遊休農地を再生したほ場7.5a。農園の管理を担う地域おこし協力隊員は「去年は栽培に慣れるのに精一杯だったが、今年はしっかり管理して目標収量3tを目指す」と抱負を語っていました。収穫は7月上旬から10月下旬を予定しています。

引き続き室戸支所では、関係機関と連携して、目標が達成できるように「ひなたぼっこ」並びに協力隊を支援します。

イチジクの出荷規格を作ろう！～なはりの郷定例会～



聞き取り調査の様子

5月15日、なはりの郷の農業部門定例会が開催され、なはりの郷、役場、農業委員、地域本部の関係機関11名が出席しました。

定例会では、事務局から農業部門の事業報告があり、農業改良普及課からは、イチジクの収量・品質向上に向けた出荷規格の作成を提案しました。当日の協議がスムーズに進むよう、事前に栽培や販売の担当者に、現行の出荷方法の聞き取り調査を行い情報提供しました。

出席者からは、「今後は販売側にも意見を聞きながら、出荷規格を考える必要がある」などの声が挙がりました。

農業改良普及課では、今後も関係機関と連携しながら、イチジクの収量・品質向上に向けて支援していきます。

すすかび病撃退を目指して～薬剤防除体系の効果検証～



発病調査を行う普及指導員

5月19日、農業改良普及課はナスすすかび病防除体系の実施ほ場で発病調査を実施しました。

農業改良普及課では、11～2月に予防散布を徹底し、3月以降のすすかび病の発生を抑制することを目的とした薬剤防除体系を作成し、現地で効果の検証を行っています。今回は令和5園芸年度最後の発病調査となりました。

本防除体系を実施した生産者からは「天候が悪い日が多かったが病気を抑えることができた。来作も実施したい。」といった声が聞かれました。

農業改良普及課は、今後も産地の課題となる病虫害の対策方法を検討し、安定した収量や品質向上に繋がるよう支援します。

令和5年産は表年！～安芸地区柚子部中芸集出荷場支部通常総会～



令和5年産の生育概況等について説明する普及指導員

5月21日、J A安芸地区柚子部中芸集出荷場支部通常総会が開催され、生産者及びJ A22名が出席しました。

総会では令和5年度の事業計画や支部規約の改正、役員の改選などについて協議しました。

農業改良普及課からは、令和5年産ユズの生育概況と今後の管理、熱中症対策について説明しました。安芸地域では令和5年産は全体的に着花量が多い傾向であり、中芸集出荷場支部管内でも豊作が予想されます。新型コロナの情勢も鑑みて、昨年度まで以上に積極的な部会活動を行っていくことを確認しました。

農業改良普及課では、今後も関係機関と連携しながら、安芸地域のユズの生産振興に取り組んでいきます。

栽培管理の期末の振り返りをしましょう～生育、収量データ共有シートの返却～



資料説明をする普及指導員

農業改良普及課は、SAWACHIを利用している農家や新規就農者のナス生産者17人を対象に1～2ヶ月に1度、生育、収量データをまとめたシートの共有を行い、目標収量の達成状況の確認や栽培管理の振り返りを行っています。

生産者からは、目標収量の達成に近づいている、収量の山谷を整枝方法で改善したい、3月以降もハウス内環境の適正管理を意識した結果が出ているなどの意見が出され、これまでの振り返りを活かした管理の徹底、次作への課題抽出がされました。

農業改良普及課は、今後も収量、品質向上に向け、栽培管理指導を行っています。